



## 自衛隊荒川区協力会による「海上自衛隊横須賀基地」研修

東京地本台東出張所は、7月6日、自衛隊荒川区協力会の会員等22名に対し、海上自衛隊横須賀基地研修を実施した。

当事業は会員の相互連携と海上自衛隊に対する理解の促進を図るため、自衛隊荒川区協力会会長（片岡正光氏）の発意により行われた。

はじめに、掃海母艦「うらが」の艦橋や艦内を見学し、加圧装置等の様々な機能や従来の掃海母艦に比べ2.5倍以上に大型化された艦艇の大きさを体感するとともに、現在も、過去に敷設された艦艇の大きさを体感するとともに、現在も、過去に敷設された機雷の処理により海路の安全確保に貢献している状況を確認し、その危険性と重要性を深く認識した。

また、艦内で担当者が腕によりをかけて作った渾身の力レーライスの体験喫食も参加者に変好評であった。

次いで、第2術科学校へ移動し、海上自衛隊創設資料室において終戦時の海軍解散から海上警備隊創設、海上自衛隊へ移行した歴史を確認した。参加者は皆感慨深い様子で担当者の説明に聞き入り、「警備隊の宣誓と自衛隊の宣誓の違いや海軍からの伝統が継承されていることがよくわかる印象的な説明で、海上自衛隊に対する理解が一層深まった。周りの人にも伝えたい。」と感想を述べていた。

台東出張所では、適宜協力者及び募集対象者に対する部隊研修を実施していくとしている。



## 陸上自衛隊土浦駐屯地研修で「予科練の記憶」を辿る

東京地本台東出張所は、7月9日、都内の大学生、大学院生及び教授の計8名に対して陸上自衛隊土浦駐屯地研修を実施した。当事業は募集対象者及び学校関係者の自衛隊への理解促進を図り、自衛官への志願に繋げるため、現在、拓殖大学院生として在学している田中3空佐との連携により行われた。

はじめに、土浦駐屯地広報支援班から土浦駐屯地及び武器学校の沿革・概要等について説明を受けた後、小火器コーナーの見学を行った。小火器コーナーには、火縄銃から自衛隊で装備している銃など国内外の小銃・機関銃の実銃約700点の展示に、「これだけのものを一度に見たのははじめて」との感動の声や、中には「虎ノ門事件」で当時使用されたとされるステッキ銃（同類型）もあり、「話には聞いたが実際に銃だとは思えない。歴史の一端を感じられて良かった」などの声が聞かれた。

最後は、予科練平和記念館、雄翔園及び雄翔館の研修を行った。雄翔園は日本列島を模して造られた庭園であり、各地の土を使用して作られたこと、芝生の7石は予科練生の制服の7つボタンと世界の七大洋を表しているなどそれぞれの意味の深さに皆感慨深い様子で聞き入るとともに、雄翔館では展示されている予科練出身者の遺書、遺品等を見学し、当時の人たちへ思いを馳せつつ「死を意識した時の心の動き、思考、行動がいろいろとあり、人生そして平和というものについて改めて考えさせられ貴重な研修だった」との感想が聞かれた。

台東出張所では、適宜募集対象者に対する部隊研修を実施して募集基盤の強化、拡充に繋げていくとしている。

